

1 単元名 ハインの紹介文とフォトストーリー（なりきり版）をつくろう！ ～小さな労働者～

2 目 標

- (1) 学習活動の見通しを持ち、意欲的に取り組もうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 整理した情報をもとに、また、他の人の意見を参考にしながら、ハインの生き方について自分なりの考えをまとめている。 (話す・聞く能力)
- (3) 課題に即して必要な情報を集め、文章を再構成しながらまとめ直している。 (書く能力)
- (4) 写真と文章を関連させた表現の効果を理解している。 (読む能力)
- (5) 辞典を引きながら、できるだけ漢字を多用し、表現の向上に努めている。 (言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

本単元では、さまざまなメディアから発信される情報を取捨選択し、目的に応じて再構成する力を養うことを大きなねらいとしている。本題材は、1900年代初頭のアメリカにおいて、「フォトストーリー」という表現形式を駆使し、過酷な労働を強いられた子どもたちの実態を訴えたルイス・ハインの活動を描いたドキュメンタリーである。「フォトストーリー」は、「写真」と「文章」を効果的に結びつけた一種のマルチメディアを駆使した表現であり、画像と文字情報を再構成したものである。さらに、「小さな労働者」という作品は、筆者フリードマンが、ルイス・ハインの生涯を読者に伝えるために、さまざまな情報を再構成して表現した文章である。このように、本題材は、「情報の再構成」をするには、ふさわしいものといえる。

| | | | |
|------------------|--------|-------------|-----|
| 生徒の実態調査 | (アンケート | 平成*年*月*日実施 | *名) |
| ・書く活動は、好きである。 | *名 | ふつうである。 | *名 |
| ・グループ活動は、好きである。 | *名 | ふつうである。 | *名 |
| ・辞書を、積極的に活用している。 | *名 | あまり活用していない。 | *名 |

本学級の生徒は、授業中、教師が指示したことはきちんとやり、グループ活動も意欲的に取り組んでいる。上記のアンケート結果からもわかるように、ほとんどの生徒は書く活動に抵抗感はなくなってきており、グループ活動も好意的にとらえている。そこからも「学び合い」について、十分機能しているといえる。

そこで、本単元では、「情報の取捨選択」「文章の再構成」を大きな柱とし、学習活動を通して、これらの力をしっかり身につけていきたいと考えた。また、グループ活動において、他の人の意見を参考にすることで、多様な表現の仕方を学ぶ一つのきっかけとしていきたい。

4 指導と評価の計画（5時間取り扱い ○は本時）

| 次 | 学習内容 | 時 | 評価の観点 | | | | | 主な評価規準 |
|---|---|-----------------------|-------|---|---|---|---|---|
| | | | 関 | 話 | 書 | 読 | 言 | |
| 1 | ・全文を通読し、内容を読み取る。 ・「学習の課題 a」の一つ目の課題に取り組む。 | 1 | ○ | | | ◎ | | 課題に即して必要な情報を集め、カードに記入することができる。 |
| 2 | ・「学習の課題 a」の二つ目の課題に取り組む。 ・グループで意見を交換し、自分の考えをまとめる。 | 2 | ○ | ○ | | ◎ | | 整理した情報をもとに、また、他の人の意見を参考にしながら、自分なりの考えをまとめることができる。 |
| 3 | ・「学習の課題 b」に取り組む。 ・ハインの紹介文とフォトストーリー（なりきり版）を作る。 | 3 ・ ④ ・ 5 | ○ | | ◎ | | ○ | 整理した情報を、相手や目的に応じてまとめることができる。 本文の表現を参考にしながら、ハインの視点を意識して文章を書くことができる。 |

5 本時の学習

(1) 目標

再構成の意義やコツを理解した上で、「学習の課題」に沿ったまとめをすることができる。

(2) 研究テーマとの関連

互いの作品を読み合うなど、「作品の交流」をさせることで、多様な表現方法を知り、表現力の向上を図りたい。

(3) 準備・資料

国語教科書、ノート、国語辞典、ワークシート、色鉛筆、写真のコピー

(4) 展開

(評) は評価及び評価の方法

◎はテーマとの関連

| 学習内容及び活動 | 援助・指導上の留意点と評価 |
|--|--|
| <p>1 漢字トレーニングをする。(擬音語集め)</p> <p>2 前時までの学習を確かめ、めあてを意識する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ハインの紹介文とフォトストーリー (なりきり版)」を作ろう。</p> </div> <p>3 ハインの紹介文かフォトストーリーを創作する。</p> <p>(1) 情報を伝える対象 1年生に「小さな労働者」の内容を紹介する。</p> <p>(2) 活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループを作る。 ・「ハインの紹介文」「フォトストーリー」を作る。 ・最終ページに「編集後記」として、「ハインの生き方について」「小さな労働者」の感想を短くまとめて書く。 <p>4 作品の交流をする。</p> <p>5 学習を振り返るとともに、次時の学習のめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ハインの紹介文とフォトストーリーを完成させよう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・「ことばとの出会い」を大切にし、ことばや漢字に興味を持ってもらうために、毎時間取り入れている活動である。 ・模範例を黒板に掲示し、それを見せながら、作品完成に向けた大体的見通しを持たせる。 ・「自分の理解を深めるためにまとめ直す。」「他の人に伝えるためにまとめ直す」といった再構成の意義を伝える。 ・「文章の中心やキーワードをとらえる。」「事実と、筆者の意見や判断とを区別する。」といった再構成するためのコツを伝える。 ・紹介文にするか、フォトストーリーにするかは、グループの中で話し合いをし、決める。 ・長さの指示はしない。長くても短くても良いことを伝える。書こうとする意欲を持たせる。 ・活動形態は、グループ学習(4人前後)を中心とするが、一人でやりたい場合は、それでも良いことを伝える。 ・どんどん創作ができる生徒には、まだ終わっていない生徒を手伝わせる。「学び合い」「教え合い」の雰囲気作りに努めることで、なかなか筆が進まない生徒に、活動が少しでも進むように配慮していく。 ・正解・不正解にとらわれることなく、生徒の創造性を大切にしたい。ただし、あまりにも内容とかけ離れてしまった場合には、机間指導の際に、さりげなく軌道修正するようアドバイスする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(評) 集めた情報を自分の表現に役立てながら、目的や必要に応じて要約することができたか。(観察, ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・完成していなくても、全員が作品の交流を通して、お互いが「認め合い」「高め合い」ができるように配慮する。 【「認め合い」「高め合い」のポイント】 ○表現上で工夫したところを共有できている。 ○表現上の良さを共有できている。 ○発表者は、聴いている生徒にきちんと言葉を届けている。 ○聴いている生徒は、発表者の意見を傾聴している。等々 ◎互いの作品を読み合い、友だちの「よいところ」に気づかせることで、表現力の向上が図られるよう、配慮する。 ・今日の学習をふまえて、自分の課題をもって、作品を完成させることができるようにする。 ・自分の課題とは、例えば「時間内に終わらせる」「課題に沿った活動が一人でもできる」「目的意識・相手意識をはっきりさせた上で、書く活動に取り組める」などである。 |

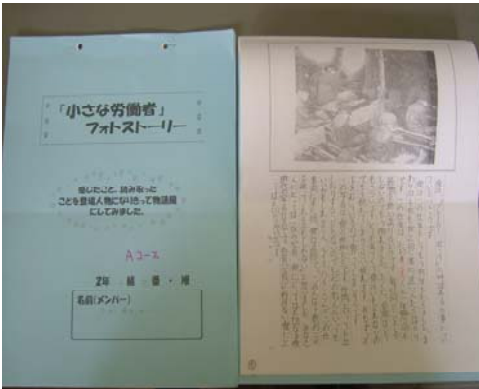
6 本單元における活動

(1) 生徒の様子

教科書の情報を元に、登場人物の心情を理解しながら、「なりきり作文」を作るという指示を出した。どの生徒もその登場人物になりきり、意欲的に表現活動に取り組んでいた。授業の最初に「擬音語集め」をしたせいか、適切な場面であまく擬音語を用い、臨場感あふれる作品に仕上げている。

生徒の感想（毎回授業後に書かせているノートの感想より抜粋）

- ・登場人物になりきることで、小さなうちから働くことがいかに大変なことかがよくわかった。
- ・擬音語を使うと読んでいる方は想像しやすかった。



(2) 生徒の作品

当初はグループ内で分担することも考えたが、一年間かけて生徒に書きグセがある程度ついてきたので、一人ずつフォトストーリーを最後まで完成させていくことにした。それにより、達成感をつけたいと考えた。擬音語を適度にちりばめたことで、臨場感を持たせ、全体的に表現力が豊かになったように思う。

以下の作品は、女子生徒のものであるが、教科書の情報にきちんと合わせ、登場人物の心情を理解しながら、作文を仕上げている。特に、作品後半の「知らないおじさんが写真を撮ろうとしていた。」ところは、5歳児らしいしゃべり方・感覚で「なりきり作文」が完成したことに驚いてしまった。

僕はマニュエル。5歳なんだ。ミシシッピ州のビロクシーにあるシーフード工場で働いているんだ。初めて就いたのが4歳のときで、今ではとっても慣れた手つきで仕事をしている。でも、その仕事は簡単とは言えないんだ。カチカチに凍ったエビの殻をむくから、僕の手は赤いし、ひびが入っている。朝3時に鳴る笛の音でいつも起きるんだ。とっても眠いけど、働かないとお金がもらえない。お給料も少なく、くつさえ買えない。僕にとって、くつはとっても必要な存在。だって、貝の山を歩くには、裸足じゃとてもきつい。裸足で歩くと、ガシャガシャ鳴るし、たまにトゲもあるから、ささると痛い。たまに鳴きそうになるけれど、ぐつとがまんをして仕事を続ける。こんなことを何回も繰り返してきたんだ。時々、思うことがあるんだ。いつになったら、解放されるんろう？いつになったら自由になれるんろう？この間、知らないおじさんが僕を撮ろうとしていた。僕はレンズに向けて訴えたんだ。さっきの疑問を。(2年女子生徒)